

図書案内

2021 年

3 月号

担当 1-3 石崎 1-3 山本 1-4 細川 1-7 山澤

別れ

3 月です。別れと出会いの季節となりました。今年度最後の図書案内のテーマは「別れ」です。温かい気持ちになれるものから定番のものまで、テーマに合う本を選びました。様々な良さがある本ばかりです。ぜひ、読んでみてください。また、この季節は、出会いや新しい生活が始まる時期でもあります。気分を変えて、新しいジャンルの本を読んでみるのも良いと思います。図書館で自分に合う本を探してみませんか？

『群青ロードショー』 半田 祥



高校に入学するまで引っ越しや進学で友達が入れ替わってきた陽。高校では同じ映画研究会のミーコ、ナツ、いおりと部室で毎日映画を見て楽しんできた。3 年生になり、卒業したら離れ離れになると感じた陽は、3 人との思い出を作るため、映画製作を提案する。映画にも「別れ」のシーンがあり、陽たちは自分たちと重ねて映画を作り上げていく。映画中の「別れ」シーンで演技をする陽に是非注目して読んでほしい。(細川)

「映画が好きで好きで、たまらなくて、バカみたいに観まくってきた。そんなわたしたちが、自分たちのためだけにつくる映画が、観てみたい。」



『おおかみこどもの雨と雪』 細田 守

大学生の花とその恋人の“おおかみおとこ”の間に生まれた雨と雪。2 人は、“おおかみこども”として生まれ、家族 4 人で幸せに暮らしていた。しかし突然、“おおかみおとこ”が死んでしまう。3 人は田舎へ引っ越すが……

富山県の風景もモデルにされた原作映画は皆さんも見たことがあるのではないのでしょうか。おおかみこどもの雨と雪とその母、花を中心とした別れと出会い…… それによって生じるせつなさや希望を、小説で感じながら読んでみては？ (石崎)

「……元気でいて……」

『夜の木の下で』 湯本 香樹実



人生を通して誰もが経験し、そして人に変化をもたらす“別れ”。本作品では短編の物語を六つ収録しており、そのどれもが別れをテーマとして書き上げられている。一口に別れと言っても、それは死別であったり勤務先の都合であったりと様々である。

一話一話が短いので、二、三時間あれば読めるが、予想を上回る満足感が味わえる。読書好きにはもちろん、本が苦手な人にも手に取ってほしい作品である。(山本)

ゆうべ、夢を見た。鮮やかな夏の草原を、あいつは馬で疾^{はし}ってた。

『かもめのジョナサン』 リチャード・バック



飛ぶことが大好きなかもめのジョナサンは、群れのことはそっちのけで日夜飛行練習をしていた。彼は腕を上げるが、群れに異端とみなされ追放される。しかし、群れとの別れは、彼に飛行を究め、群れの因習から脱却する好機を作った。

向上心の塊で飛ぶこと以外を削ぎ落した主人公には共感しづらい部分もあるが、別れは人生において、一步を踏み出すときの強い推進力となることは本から感じ取れた。(山澤)

最も高く飛ぶカモメが最も遠くを見通せるのだ。

脳と感情

生きていく上で色々な人との出会い、そして大切な人との別れは避けては通れないものでしょう。とりわけ誰かとの別離はしばしば人々の感情に大きな影響を与えるものです。一番多いのは「悲しみ」の感情でしょう。では人はなぜ悲しみを感じるのでしょうか？ これには大きく発達した前頭前野が関係しています。ネコやイヌの脳に占める前頭前野の割合は 4～7%ほどですが、人間は脳の約 30%を占めています。このために人間は「嬉しい」「悲しい」などの複雑な感情をコントロールすることができるのです。ではほかの動物はどうでしょうか。最新の研究でイヌにも感情があると科学的な証明がされました。MRI によって脳の経路の活動が確認されたのです。言葉は発せなくても、人間に近い感情があるのですね。また、「植物にも感情があるのでは」と考えられてもいますが、これまでの研究では証明に至っていないようです。

【出典】NATIONAL GEOGRAPHIC「犬にも感情がある、MRI で確認」<https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/16/b/091200113/?P=3>
脳科学辞典「前頭前野」<https://bsd.neuroinf.jp/wiki/%E5%89%8D%E9%A0%AD%E5%89%8D%E9%87%8E>